



2023年2月1日発行

公益財団法人京都YMCA
〒604-8083
京都市中京区三条通
柳馬場東入中之町2
Tel 075-231-4388
http://kyotoymca.or.jp/
発行人/加藤 俊明

YMCA News



2/22 WED. YMCAピンクシャツデー



ピンクシャツデーとは

「ピンクシャツデー」は、2007年、カナダの学生2人から始まったいじめ反対運動です。ある日、ピンクのポロシャツを着て登校した少年が「ホモセクシャルだ」といじめられました。それを聞いた先輩2人が50枚のピンクシャツを購入、インターネットで「明日、一緒に学校でピンクのシャツを着よう」と呼びかけました。翌日学校では呼びかけに賛同した数百名の生徒がピンクのシャツや小物を身に付けて登校。学校中がピンク色に染まり、いじめが自然となくなったそうです。このエピソードはSNS等で世界中に広まり、今では70カ国以上でいじめに反対する活動が行われています。カナダで最初にこの出来事があった日が、2月の最終水曜日でした。それ以降、2月の最終水曜日に私たちもいじめについて考え、いじめられている人と連帯する思いを表す1日としています。

文部科学省の報告によれば、昨年度学校で認知された「いじめ」は61万件と過去最多を更新、自殺や不登校などの重大事態も200件近く増えて705件となっています。文部科学省は、いじめ増加の背景に、コロナ禍で人間関係を築くのが難しくなっていることがあるとみています。いじめにより辛い日々を過ごしている子どもたちが大勢いる、という現実が心が痛みます。

(出典) 昨年度 全国の学校が把握した「いじめ」 61万件超 過去最多に | NHK | 教育 <https://www3.nhk.or.jp/news/html/20221027/>

2/23 京都YMCAバザー展示 ピンクシャツデー2023

「ストップ！いじめ」ポスター展作品募集

京都YMCAでは、今年、ピンクシャツデーの願いをより多くの地域の方々と共有するために、京都市教育委員会の後援・地域の小学校の皆さまにご協力いただき、ポスター展を開催することになりました。いじめを「やめよう!」「とめよう!」の思いをシェアして、一緒にアクションを起こしましょう!

詳細はQRコード
をご覧ください



世界の子どもたちのために！ 地域の子どもたちのために！

京都YMCAバザー

2023年2月23日（木・祝）11:00～14:00

会場：京都YMCA三条本館

主催：公益財団法人京都YMCA 主管：京都YMCAバザー実行委員会
(会員活動推進委員会と国際協力専門委員会の共同委員会)

バザーの収益は、YMCA国際協力募金や、京都YMCAが行う青少年育成・地域奉仕の公益活動に用いられます。

- ピンクシャツデー2023
「ストップ！いじめ」ポスター展
- 食べ物店 ○ 物品バザー



バザー物品提供お願いします 受付：2/10金～2/20月

詳細はQRコード
をご覧ください

寄贈感謝 たくさんのご支援ありがとうございます

Amazon「みんなでサンタクロース」

おもちゃや紙芝居、作品の収納ラックなど、Amazonユーザーの皆さまから素晴らしいクリスマスプレゼントをいただきました。子どもたちは早速夢中に遊んでいます。



障がいのある子供たちの
創作広場パレットより

念願の収納ラックをいただき感謝です。新年度に向けて活用します。毎第3土曜日に活動していますので、ぜひご視察にお越しください。

紙芝居の読み聞かせ。「今度はこれも読んで!」というろんなお話をリクエスト。



アフタースクールのみんな
で早速遊んでいます。
大切に使います!

新しいフープで元気
いっぱい水遊びを楽
しんでいます!



京都ワイズメンズクラブ75周年記念事業 リトリートセンター

子どもの泥遊び場・シャワーブース2棟



京都クラブメンバーの皆さまが秋いっぱいをかけボランティアワークで設置くださいました。

報告 第16回インターナショナル・チャリティーラン

鴨川河川敷の利用規制が厳しくなり、従来のような大会運営が難しくなった2020年。嵐山東公園を新たな開催場所として動き始めるはずでしたが、新型コロナウイルスのため中止となりました。翌2021年も同様に中止。2022年は新たな場所でやっと開催できることとなりました。ところが、まさかの台風の影響で延期です。そんな不運もありましたが12月11日、天候にも恵まれ無事に開催することが出来ました。

102名（クォーターマラソン26名、小学生駅伝16名、なかよしラン&ウォーク60名）のランナーの皆さんは、初めてのコースという事で不安もあったかと思えます。90名のボランティアの皆さんが当日までに十分時間をかけて準備をしてい

ただいたおかげで、大きな問題も無く無事終えることができました。

京都YMCAインターナショナル・チャリティーランの目的は、障がいのある子どもたちが参加するプログラムへの支援に加え、「障がい」への社会的な理解と関心を高めることです。これからも引き続き皆様のご協力をお願いしたいと思います。最後に協賛金、参加費を合わせて1,398,000円の支援金が集まりました事をご報告させていただきます。大会に関わってくださった皆様、お疲れさまでした。そして、ありがとうございました。

チャリティーラン実行委員会 委員長
青倉 国土 さん



報告 市民クリスマスコンサート&キャロルナイト

12月23日（金）に中京区のウィングス京都で「京都YMCA市民クリスマス」が開催されました。私の所属する京都YMCAの活動推進専門委員会の皆でこのクリスマスコンサートの企画と準備を行いました。今回は2部制とし、第1部は京都大学交響楽団のメンバーによる弦楽四重奏のコンサート、そして第2部は、関西セミナーハウスの榎本栄次牧師のクリスマスメッセージと聖書の朗読でした。

第1部のコンサートは、スタッフとして舞台袖で間かさせていただきました。京都大学交響楽団（京オケ）さんは、100年以上の歴史と約150名の団員を有し、年に2回の定期演奏会を活動の中心とされている本格的なオーケストラです。その中から4名の方に弦楽四重奏をご披露いただきました。限ら

れたリハーサル時間の中、うまくいくか心配でしたが、緞帳が上がり演奏が始まったときはホッとしました。やはりライブでの演奏はスピーカーの音とは全く違い、音色が心に響き感動します。音楽は皆の心をつつするということを実感しました。ワイズメンズクラブや近隣のYMCAの会員の皆様が約80名ご来場くださいましたが、来年はもっと早くから告知とアピールが出来るように準備をして、より多くの方に会場頂けるように努めたいと思います。また、京都YMCAがサポートする小児病棟の子どもたちにも是非、ライブの音楽を聞かせてあげたいと感じました。

活動推進専門委員会 委員長
亀井 久照 さん



報告 舞鶴野球大会

12月3日・4日、第3回YMCA杯学童野球大会を東舞鶴運動公園で開催しました。9チーム、約100名の子どもたちによる日頃の練習の成果を発揮した熱戦が繰り広げられました。



この大会は舞鶴YMCA国際福祉専門学校と北京都フロンティアワイズメンズクラブが共催し、地域奉仕を行っている我々の活動を知ってもらうことと、舞鶴地域の子どもたちの成長を応援しようと実施しています。今回も多くのスポンサー企業のご支援を得て無事に終了することができました。皆様のご支援・ご協力ありがとうございました。

報告 会員継続同盟表彰

11月に東山荘で開催された日本YMCA大会で長年YMCAの会員として協力いただいた方々に日本YMCA同盟より表彰状と記念品が贈られました。



京都YMCAからは、50年継続会員賞2名と25年継続会員賞16名が表彰されました。日本YMCA大会の中で行われた表彰式には、京都から50年継続会員賞を受賞された森田恵三さんが出席され、他の方々と共に日本YMCA同盟の川本龍資会長より表彰状が贈られました。受賞された皆様おめでとうございます。

第20回子育て応援セミナー

「わが子の成長に、今必要な関わりとは？様々な角度から『成長』を見つめ、わが子への適切な関わりを探る」

子育てで気になる、様々な「なぞ」を解くカギを見つけ、わが子の魅力を生かして、健やかな成長を見守る方法について理解を深めます。

日時：2023年2月23日（木）13時30分～15時30分
会場：ウィングス京都2階セミナー室B
講師：原田 孝氏（大阪総合教育支援研究所代表）
参加費：2,000円/名（テキスト代を含む）
参加費は当日受付にてお支払いください
定員：50名（先着順）

[申込フォーム](#)

お問い合わせ先

ウエルネスセンター
☎ 075-255-4709



連載 第8回「共に生きる勇気」

共に生きる

申命記 31章 8節

「主ご自身があなたの先に進まれる。主があなたとともにおられる。

主はあなたを見放さず、あなたを見捨てない。恐れてはならない。おののいてはならない」

聖書の教えから現代社会を生きるヒントを。

この連載は毎号違う牧師が寄稿する「リレー形式」でお届けしていきます。

奥村拓也さん 洛西キリスト教会教会 牧師

『特別じゃなきゃいけないんですか？私はそうは思いませんよ。少なくともこの子は偉大になんてならなくてもいい。人より優れていなくたって。だって、見てくださいよ。こんなに可愛い。だからこの子はもう偉いんです。この世界に生まれてきてくれたんだから。』

これは、少年漫画「進撃の巨人」の主人公エレンの母、カルラの言葉です。YouTubeのせいでしょうか。SNSのせいでしょうか。リア充な投稿ばかりが目について落ち込みます。コロナのせいでしょうか。戦争のせいでしょうか。円安のせいでしょうか。将来への不安と焦りが募ります。「特別にならなきゃ！」と。でも、そんなメンタリティーからは、建設的な行動は生まれません。「何があっても大丈夫。見捨てられることはない」と思える後ろ盾がなければ、安心してチャレンジもできない。素の自分を受け止める勇気と自由な心が必要です。「あなたを見放さず、あなたを見捨てない」と約束してくださる神が共にいてくださる。それを後ろ盾に、人と共に生きる勇気をいただいて2023年を進んで行きましょう。